2009/10/27 付　建設工業新聞

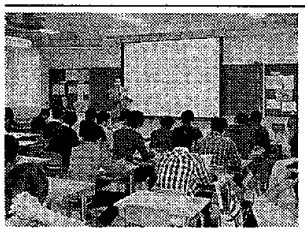
【JCCA 近畿支部】学校訪問プログラムの記事が掲載されました

コンサルの魅力発信

建コン協近畿 学校訪問プログラム

若手技術者が高専で授業

建設コンサルタンツ協会（建コン協）近畿支部（松本正毅支部長）の技術部会の若手技術者で構成する「建設コンサルタントの役割に関する検討委員会」は、土木を学ぶ生徒たちに建設コンサルタントの仕事や魅力を紹介する学校訪問プログラムの初の取り組みとして23日、兵庫県明石市の明石工業高等専門学校を訪れ、都市システム工学科の4年生41人に社会資本整備の大切さや建設コンサルタントの仕事、魅力などを訴えた＝写真。



同検討委員会は、建設コンサルタントの社会的認知度を高め地位向上を図るために、建設コンサルタントの必要性と魅力を世間一般に情報発信していくことを目的に発足。漫画を用いた分かりやすい資料を作成するなどして、大学、高等専門学校の学生に向けたＰＲ活動を展開する。

近畿支部技術部会技術委員会では、若手企画幹事会のメンバーが支部会員各社の若手技術者に呼びかけて、04年度から産学官による「若手技術者意見交換会」を実施。若手技術者に何ができるかなどを討論してきたが、その具体策として情報発信を目的とする新たな委員会を発足させた。委員長には渡邉信也氏（東洋技研コンサルタント）、副委員長には水谷淳氏（修成建設コンサルタント）と林昌成氏（中央コンサルタンツ）を選出し、10人の若手技術者で構成している。08年10月には「土木の活性化を目指した学識経験者との意見交換会」を開き、学校訪問に関する議題や建設コンサルタントに対するイメージ、さらに土木に関する情報発信について意見を交わし、学校訪問プログラムの準備を進めていた。

この日の学校訪問は、明石高専の協力で授業の一環として実現した。午前9時から約1時間半にわたって検討委員会らのメンバー9人が授業を展開。我が国の問題点として環境問題、台風・地震、道路構造物の老朽化、人口減少・少子高齢化の話を手始めに、社会資本整備の流れや建設コンサルタントの仕事について、写真や図を織り交ぜながらわかりやすく説明。コンサルタント会社で働くお父さんが、子どもの作文用に仕事の内容を教えるミニ劇場も披露した。

最後に設計者の思いとして、「良い思い出として語れる業務に出合えたときのうれしさ」「自らのアイデアや工夫によるものづくりができる楽しさ」などの魅力を話したうえで、「建設コンサルタントは、専門技術を有するエンジニアであるとともにユーザーの代弁者でもある。皆さんも我々とともに10年後、20年後の日本をデザインしてみませんか」と締めくくった。

この後質疑応答が行われ、生徒から「給料は高いの？」「インターンシップではデータ整理ばかりしていたが、現場に出る機会はないのか」などの質問に対し、きちんと丁寧に答えていた。